

みなさま、こんにちは。名理会実践研究部会です。実践研究部会での話題をこの「みんなで創る理科授業」にて紹介していきます。よろしくお願いいたします。

6月21日（水）に開催された実践研究部会での活動を紹介します。今回は、名古屋市科学館学芸員の高羽 幸さんが実践研究部の活動を知り、興味を持ってくださったため、ご参加いただきました。

## 今回の参加者のみなさん



神沢中

瀧田健司先生



山王中

阿比留慶治先生



富士中

濱地光大先生



有松中

丹羽良平先生



笹島中

井上将孝先生



西福田小

武田和太先生



扇台中

小比賀正規先生



港南中

宮田将太郎先生



吉根中

永冶友希先生



楠中

吉岡 隆先生



北中

旦野智啓先生



守山西中

常行健太郎先生



長良中

森 智也先生



有松中

樽見 宗先生



天神山中

増田旬一郎先生



萩山中

田舎片雄貴先生



港南中

伊東拓哉先生



名古屋市科学館

高羽 幸さん

最初にチェックインとして、小グループごとに「好きな单元」「今日、楽しみにしていること」「最近のヒヤリハット」を交えて自己紹介を行いました。

その後、次ページの「本日のゴール」を確認し、会が始まりました。

## 本日のゴール

- 理科の話が気軽にできる人を、二人以上新たに増やす。
- 秋の授業公開の実践について、自分だったらどうする？という視点で考えを持つことができる。

## 秋の授業公開について

秋の授業公開の授業者である扇台中学校の小比賀正規先生より、今回の授業を進めるに当たってのオリエンテーションをしていただきました。これまで取り組んでこられた授業（実践）について大切にしてきたことや、今年度理科の授業でやってみよう（力を入れてみよう）と思っていることなどについてお話いただきました。

その中で、「理科の授業では生徒に探究させたい。そのために大切にしていることは、生徒が仮説を立ててから観察・実験に臨ませることである。」という考えを聞くことができました。そして、今回の授業について、「音の学習では、生徒にとって身近とは言えないモノコードが唐突に出てくる。モノコードの教材としての有用性は理解できるが、より身近な事物・現象を活用できないか。また、音について、定量的な理解を生徒に深めさせたい。」というねらいもお話いただき、参加者で共有することができました。

その後、「音の性質」の単元の授業について、自分に置き換えてグループごとに話し合いました。単元構成の工夫、指導法の工夫、教材の工夫など、授業作りの理解を深める機会にもなりました。



【オリエンテーションの様子】



【グループで話し合う様子】

## 名理会 秋の授業公開

令和5年10月25日（水）午後 場所：扇台中学校 授業者：小比賀正規先生  
実践単元：中1「単元3 身近な物理現象 2章 音の性質」

## 授業作りアイデア

笹島中学校の井上将孝先生から、授業作りのアイデアとして、ICT活用のツールを紹介していただきました。

授業の中で、観察・実験の結果や考察などを学級で共有させる際、黒板に書かせたり、小型のホワイトボードを活用したり、ロイロノートを活用したりしていると思います。Microsoft Teamsでチームの「ファイル」にExcelファイルをアップロードして共有すると、複数人が同時に同じファイルを開いて共同編集（データ入力）できたり、入力されたデータを即グラフ化し、その結果をリアルタイムで閲覧できたりするため、学び合いの場面で非常に有用であるとアドバイスをいただきました。